

(130) 岩手県住田町奥新切(おくにぎり)の松森鉾山

参考文献(1)、(2)、(3)を手引きに、一時期、石榴石鉾山として全国一の産出を示した岩手県住田町奥新切地区にあった松森鉾山跡を探索した。参考文献(1)には鉾山名は記されていないが、参考文献(2)、(3)には明瞭に鉾山名が記述されていた。なを、文献(2)中の松森鉾山の項を解説している著者と、文献(3)の著者は同じである。現地は深い木々草々に覆われており、まだ、鉾山跡の全体像は把握し切れていないが、幾つもの石榴石の転石を確認したので、1回だけの探査ではあるが、車を現地に横付けできる訪問の容易な場所でもあるので、報告書を書くことにした。

現地は、ほぼ自然に帰り、木々で埋もれ、外見では鉾山跡はほぼ消えかかっていた。鉾山跡らしいと目星を付けた所の手前の沢に入り、転石の探査をすると、所々に石榴石が転がっていた。沢の北側の平坦部にも石榴石を見つけた。この平坦部は、鉾山跡であろうと思われた。が、盛夏中であり、鬱蒼と木々が茂っており、歩き通るのは大変困難であった。また、鉾山道、山道らしいものも見つけられなかった。山の斜面部の、それ以上の探査はあきらめ、沢で石榴石を探した。結構な標本を採集できた。晩秋以降、木々の枯れた時期に再訪しようと思う。

現地には、車で横付けできるので、訪問は容易であるが、他県の人には、岩手の北上山地のど真ん中まで出かけるのは大旅行となることであろう。現地を訪問する折には、この近くに、他の鉾山もあるので、それらの鉾山も訪問する日程をたてるのが宜しいと思う。ちなみに、図1の右上部にある大峰鉾山跡は、本探査記で紹介済みである。

この鉾山への、住田町側からの経路は次の通りである。107号線の、世田米地域の三叉路で、340号線に入り、北上していく。約5km先で、左折し、奥新切地区へ向かっていく。左折してから約3.5kmで奥新切地区に行き着く。後掲している写真のように、広いスペースの停留所がある。現地は、左側にある橋を渡り、村道を沢に沿って、300m~400m登って行く。村道は車の通行は可能である。従って、現地には車で横付けできる。沢の対面が鉾山跡である。木々が鬱蒼と茂っている。

重さ約3kg程度の石榴石の転石を採集した。全体が石榴石の標本である。その中に至る所にある空洞中に大きくて1cm近い単結晶がきつく多数成長している。良い標本である。

探査日 2013年8月

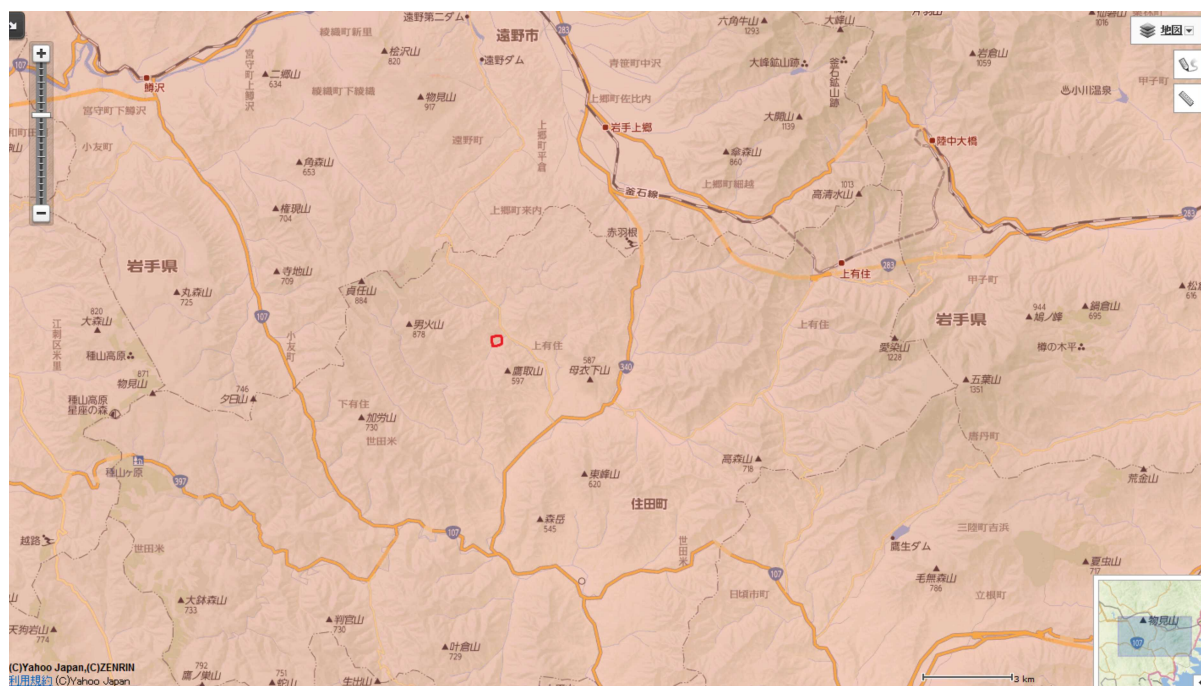


図1 Yahooの地図サービスより複写掲載。今まで通りの国土地理院の2万5千分の1の地形図では、広い領域を表示しきれないので、この地図で代用することにした。中央の鷹取(たかとり)山の上の赤丸当たりが松森鉾山跡である。現地への経路は住田町側からを説明しているが、この地図からわかるように、遠野方面からでもたどり着ける。右側上には、大峰鉾山跡も明示されている。大峰鉾山跡は本鉾山記で紹介済みである。この鉾山跡の近くに釜石鉾山跡もあるとが見てとれる。下流の沢、川には餅鉄が転がっているに違いない。



図2 図1の部分の拡大図に相当。国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。現地は、現地地形図では横沢と隣り合っているが、後掲の地質図中では、この沢の名前は「番上沢」となっている。どちらが正しいかわからない。参考文献（2）によれば、この松森鉱山近傍には、開発されていない2つの露頭鉱床がある。羽越山南東部の羽越鉱床と、東峰山（図1参照）頂上の西側の東峰鉱床である。本稿の最後に、これら鉱床の探査の勧めのための項を書き入れている。本鉱山探査記において、著者の初めての試みである。当地松森鉱山を訪問した際には、時間があれば、ハイキング・トレッキングがてらに、本稿を参考にして、これらを探査するのも良いであろう。自然に親しみ、楽しもう。

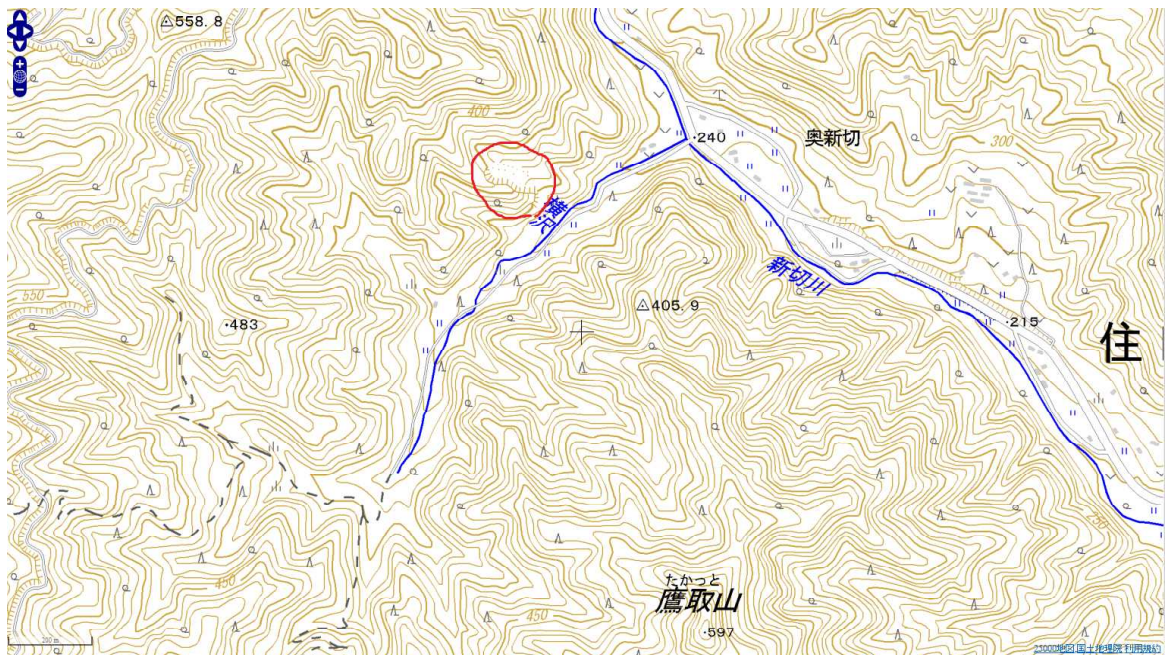


図3 更なる拡大図。 標高240の所に、奥新切の停留所がある。地形図の細部をよく見ると、横沢の文字の上方部に「崖」の記号がある。図4の地質図と対照すると、松森鉱山の採掘でできた崖跡と判断できる。今回の探査時には、現地は草木が茂り、歩きにくく、また見通しも悪く、山道も見つけられなかったので、崖部まで登り上がることは断念した。次回を期する。

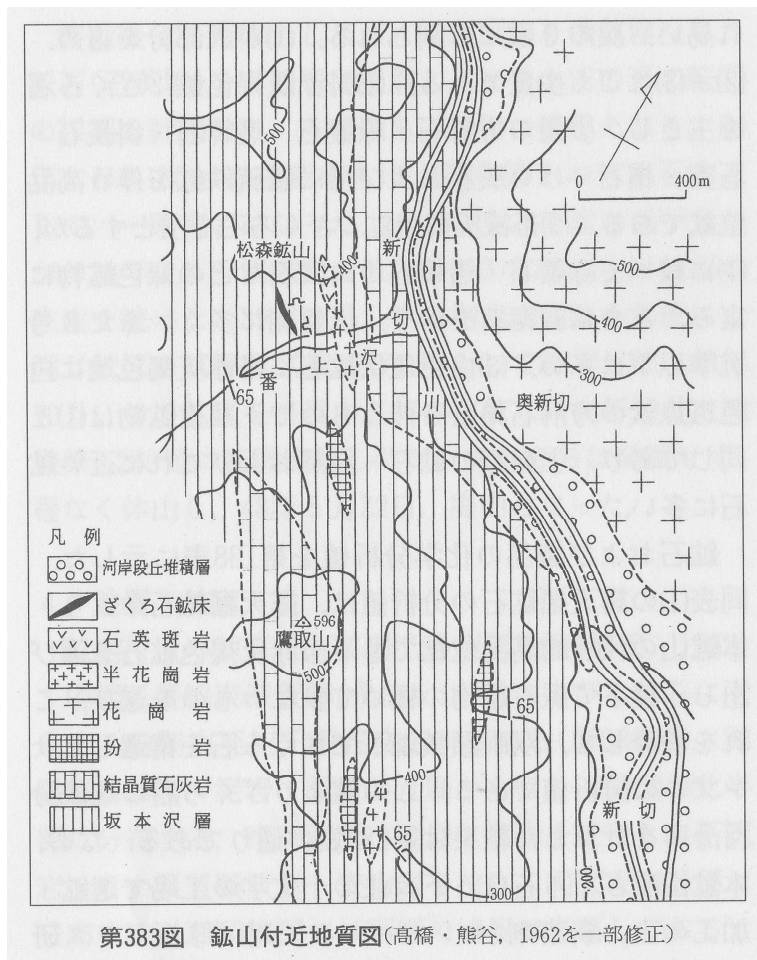


図4 参考文献(3)より。50年以上前のものである。が、現在の地形図と良く対応させることができる。次回には、是非とも坑口跡を探しだし、露頭鉱脈に触りたいものである。

鉱山跡写真



写真1 右側前方に延びているのが主道。左手に奥新切のバス停留所看板がある。周りは広い駐車スペースである。車を留め置きできるかもしれない。左側にある橋を渡り、沢に沿った村道を進めば、現地に行き着く。沢の下流部は、護岸工事が進み、コンクリート沢となっている。



写真2 橋を渡って、300m～400m進んできた。沢が少し迂回気味の前方、沢の左岸に、プラトー部がある。この付近の沢、プラトー部に石榴石の転石を見つけた。辺り一帯木々が茂っており、鉱山跡らしい写真を撮ることはできなかった。



写真3 沢で見つけた、石榴石脈（薄茶色部分）の入った転石。これは重すぎるので、写真に撮っただけ。

採集鉱物写真

なし。

参考文献

- (1)「増補改訂 フィールドベスト図鑑Vol. 14 日本の鉱物」、松原聰、学研、2009年。
- (2)「東北の工業用鉱物資源 第2輯（集）」、東北地方工業用鉱物資源開発調査委員会、1962年。
- (3)「新岩手県鉱山誌」、高橋維一郎、南部松夫、東北大学出版、2003年。

付録 羽越鉱床、東峰鉱床の探査の勧め

参考文献(2)には、松森鉱山近傍の2カ所に、石榴石露頭鉱床があるとの記述がある。羽越鉱床と東峰鉱床である。文献には手つかずの鉱床であることも記されていた。松森鉱山は産額が日本一であったことがあり、これらの2鉱床の採鉱まで気が向かなかったのかもしれない。手つかずの露頭鉱脈があるということに、興味がわく。鉱床の位置などについては、羽越鉱床については、文献には「松森鉱床の東方直距2kmに当たり、羽越山南東斜面に位置する。5万分の1地形図547m点より南に分岐する二つの尾根の西側のものにつづいて、高距280～400mの間に南北に分かれた二露頭を有する。・・・」。東峰鉱床については、「大畑峠373m点の北北東直距100mに当たり、東峰山西斜面に位置する。東峰山頂より西に突出する小尾根部に露頭を有する。・・・」。と紹介され

ている。現在の地形図では、図2からわかるように、羽越山の南東にある標高点の数値は551であり、547ではない？ 文章を確実とするためには、文献（2）が書かれた当時の5万分の1の地形図を見るしかない。図5に、参考のための資料として、国土地理院（筑波）で入手した5万分の1の「古い」地形図（遠野）の、松森鉦床、羽越鉦床、東峰鉦床があるあたりの部分図を掲載している。測図が大正時代のものである。更に、対照資料として、付近の最新の地形図を、図6、図7に複写掲載しておいた。

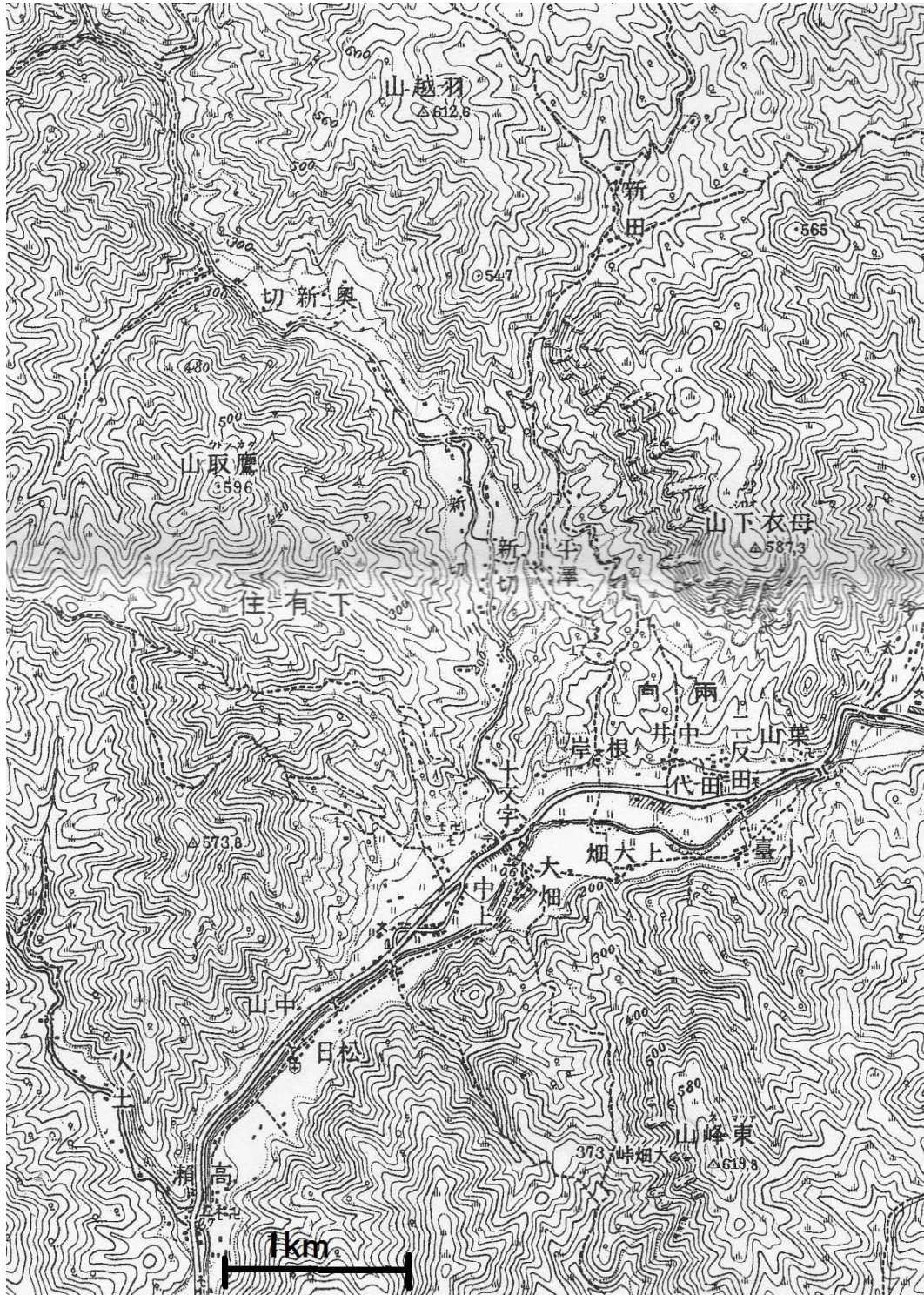


図5 「古(?)」地図(5万分の1、遠野、大正2年測量、昭和26年修正)

これらの地形図同士の対照より、標高点の数値547は、その後の測量により551に変更されたものと判断した。

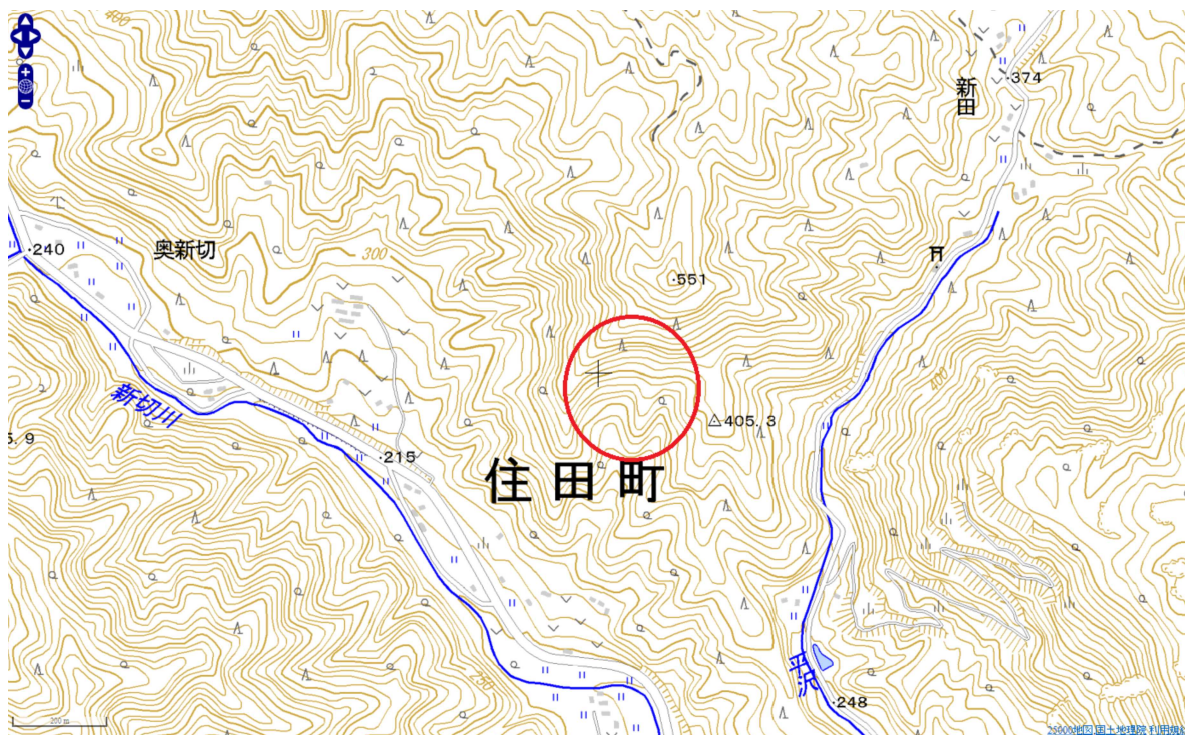


図6 羽越鉱床付近の現在の地形図。現地は赤丸当たりと思われる。図5と、本文中の現地紹介文を照らし合わせる。地図には、林道は記されていない。山が人工林（杉、松、檜など）ならば、山道があるはずである。道がなければ、自分で道を造り、先へ進むだけである。訪問は木々が枯れた時期が良さそう。

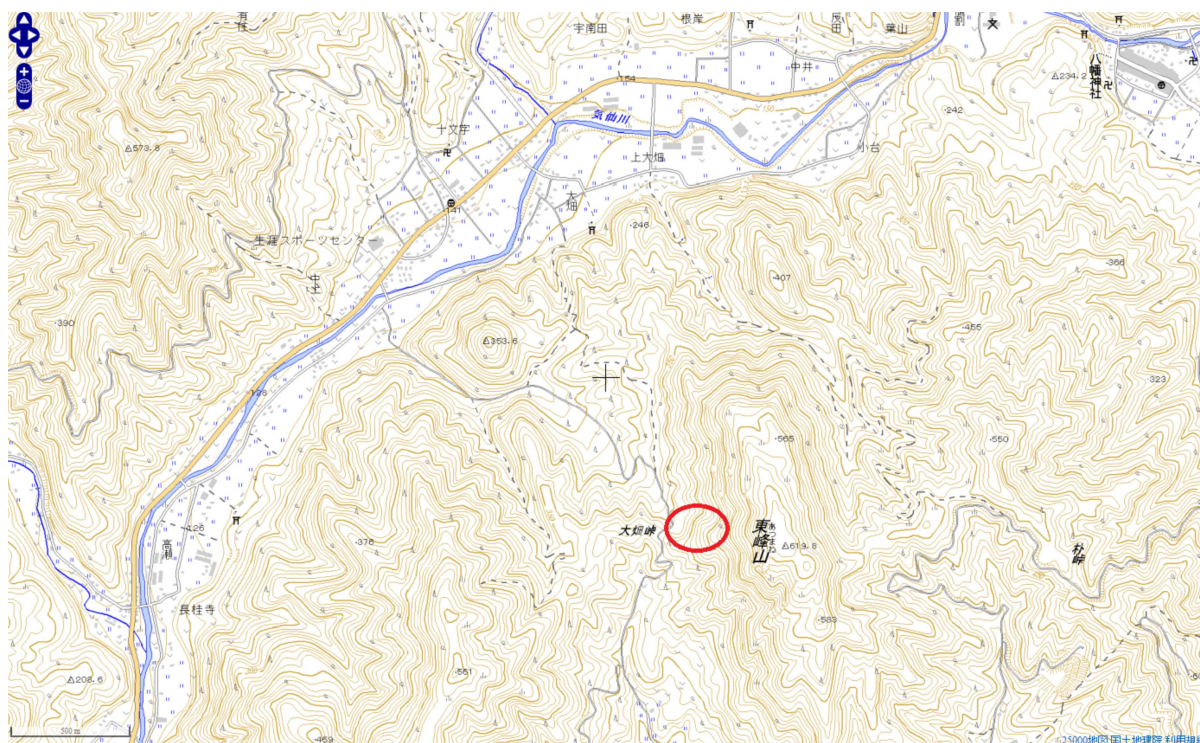


図7 東峰鉱床付近の現在の地形図。同じく、現地は赤丸当たりと思われる。図5と、現地紹介文を照らし合わせる。こちらの方は峠を林道がとっており、車で峠まで行けそう。峠まで車で行ければ、あまり歩かないで、現地を確認できると思われる。

著者自身、そのうちに探査に出かけたいと考えているが、いつになるかは未定である。ご健闘を祈る。楽しみながらやって下さい。